

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	東洋大学
整理番号	B16
構 想 名	TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、学内のグローバル化を目指すため野心的な目標設定を行い、達成のための原動力として新たに株式会社を立ち上げ、持続可能な仕組みの構築を行うなど、他大学には見られないユニークな取組を進めるものである。</p> <p>特に、国際通用性の高い教育プログラムの構築や、国際編入制度の導入など、具体性のある施策に富んでおり、全世代向けグローバル教育を実現するために「TOYO-UCLA 継続教育センター」を設立するなど、都市型大規模大学の利点を十分に活かした先進的な構想は今後大いに期待が持てる。</p> <p>その一方で、目標の達成状況に関しては、大学独自の成果指標と達成目標において未達の項目が散見される。ブリッジプログラムへの参加学生数が数値目標を大きく下回っている点、国際編入制度による編入者が極めて少ない現状、さらに、東洋グローバルリーダー認定制度の認定者数でも数値目標を著しく下回る結果になっている点については、重く受け止める必要がある。</p> <p>これらの施策の実現には、現状の延長による対応のみでは困難と思われるため、執行部主導の施策に留まらず、学生目線、現場目線を含めた抜本的な改善が必要である。最終的な数値目標を達成するためには、ボトムアップ型での施策の見直しが必要との外部評価委員の意見も踏まえ、より柔軟な検討と対策が成されることを期待する。</p> <p>最後に、本構想の持続可能性を担保する試みとしての株式会社東洋グローバルダイヤモンドの今後の発展と設立の理念が完遂され、学生の派遣・受入れの有用なモデルケースとなることを大いに期待したい。</p>	